

この号の内容

1 夏に流行する感染症について

夏に流行する感染症について

冬に猛威を振るう感染症としてインフルエンザウイルスによるインフルエンザや、ノロウイルスによるウイルス性胃腸炎が知られています。しかし夏に猛威を振るう感染症は冬に比べると認知度が低く感染対策が遅れるケースもあり得ます。今回は夏に流行する感染症について取り上げ紹介します。

①手足口病・ヘルパンギーナ

手足口病やヘルパンギーナは代表的な小児の夏風邪として知られているウイルス性疾患です。これらの疾患はエンテロウイルスによって引き起こされる事が知られております。手足口病・ヘルパンギーナは同じエンテロウイルスによって引き起こされるため、水疱を生じる等の同一性が見られるものの、水疱好発部位がそれぞれ異なる点や好発年齢が異なる等の違いがあります。エンテロウイルスの感染経路としては、接触感染ないしは飛沫感染等が考えられます。

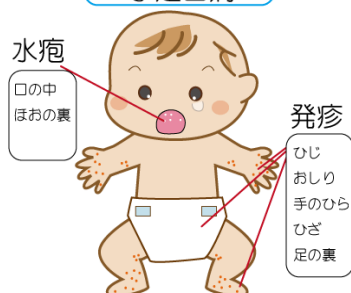
※エンテロウイルスはウイルスの総称。

コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ポリオウイルスはエンテロウイルスに分類される

②咽頭結膜熱・流行性角結膜炎

咽頭結膜熱（プール熱）・流行性角結膜炎は一年と通して発症する疾患ですが、特に夏に増加するウイルス性疾患です。咽頭結膜熱・流行性角結膜炎は共にアデノウイルスにより生じますが、咽頭結膜熱は発熱・咽頭炎・結膜炎等を主訴とする疾患で、流行性角結膜炎は結膜の浮腫や充血、眼瞼浮腫が強く、流涙や眼脂を伴う疾患と言われており、似て非なる疾患です。しかし感染経路に関しては飛沫感染・接触感染により伝播し、特に目やにを介した二次感染が広く知られています。なかでもタオルを用いて目やにをふき取った場合には、タオルがウイルス汚染され、他者へ二次感染した報告が多く存在するため注意が必要です。

手足口病



ヘルパンギーナ



各疾患の特徴一覧

病名	好発年齢	原因微生物	症状	
手足口病	2～3 歳	エンテロウイルス	<ul style="list-style-type: none"> • 38～39 度の発熱 • 手のひら、足、口の粘膜などに 5～7mm の小さな水疱形成 	
ヘルパンギーナ	0～4 歳		<ul style="list-style-type: none"> • 発熱 • 上あごの奥に周囲に赤みを伴った 1～数 mm の水疱の形成 	
咽頭結膜熱 (プール熱)	1～5 歳	アデノウイルス	<ul style="list-style-type: none"> • 発熱 • 咽頭痛 	<ul style="list-style-type: none"> • 扁桃腺の腫れ • 目やに
流行性角結膜炎	1～5 歳		<ul style="list-style-type: none"> • 結膜の浮腫、充血 • 眼瞼の浮腫 	<ul style="list-style-type: none"> • 目やに • 涙

エンテロウイルス・アデノウイルスは共にエンベロープを持たないウイルスです。エンベロープを持たないウイルスは一般的にアルコール消毒が効きにくい傾向にあり、これらのウイルスの流行期・流行地区には流水と石鹸を用いた手洗いや、次亜塩素酸ナトリウム（500～1000ppm⇒ミルトン®10 倍希釈液相当）を用いた消毒が推奨されます。

当院は小児科定点医療機関であるため、手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱の 3 疾患の診断をした際には、届出を週単位で翌週の月曜日に届け出する義務がありますので、忘れの無いようにお願いします。

また手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭性結膜熱・流行性結膜炎の 4 疾患は、学校感染症法にて出席停止基準が設けられているので説明を忘れないようにお願いします。

学校感染症法における出席停止基準

病名	出席停止の基準
手足口病	発熱や咽頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止。 治癒期は全身状態が改善すれば登校可。
ヘルパンギーナ	発熱や咽頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止。 治癒期は全身状態が改善すれば登校可。
咽頭性結膜熱	主要症状が消失した後、2 日を経過するまで出席停止。
流行性結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れのないと認めるまで出席停止。